

2015/3 第2四半期決算説明会

クオール

あなたの、いちばん近くにある安心

The First Section of the Tokyo Stock Exchange 3034



クオール株式会社



- 2015/3期 第2四半期決算概要
- 新業態事業・関連事業
- 総括

■ 2015/3期 第2四半期決算概要

■ 新業態事業・関連事業

■ 総括

2015/3 2Q決算ハイライト・・・2ケタ増収増益

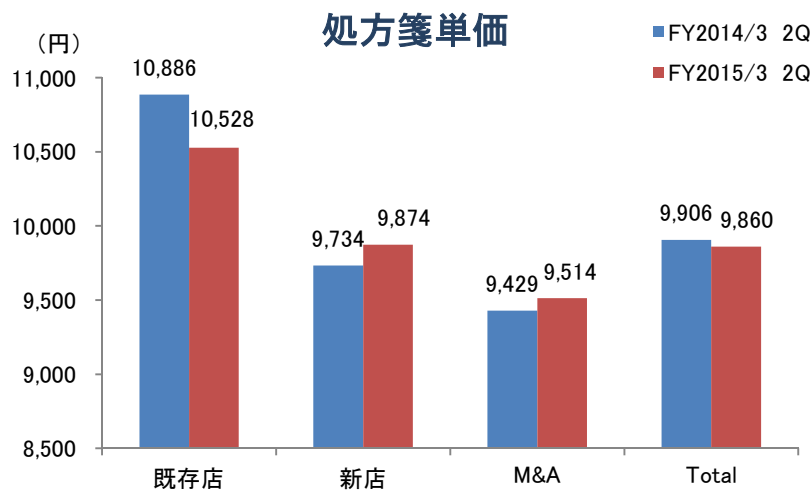
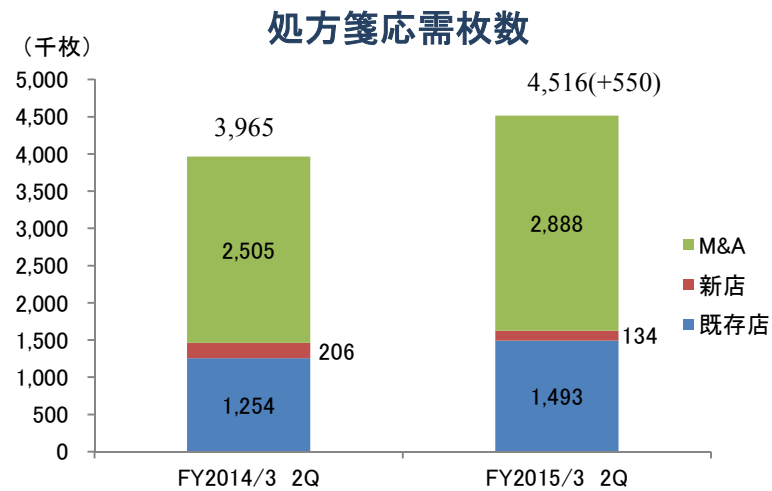
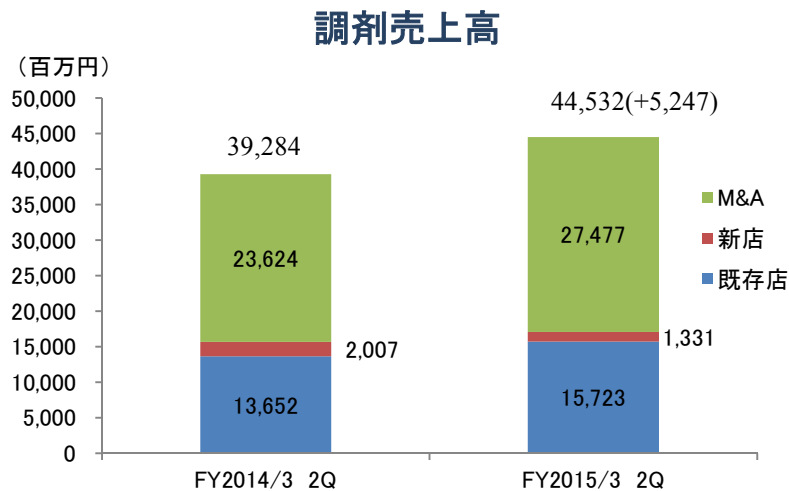


(単位:百万円)	2014/3	2014/3(2Q)	2015/3(2Q)	増減	前年同期比	2015/3 2Q計画	達成率
売上高	100,966	49,022	55,621	6,599	13.5%	55,100	100.9%
営業利益	2,105	1,016	1,551	535	52.6%	1,200	129.3%
経常利益	2,208	1,068	1,570	502	47.0%	1,300	120.8%
当期純利益	777	361	678	317	88.0%	600	113.2%
EPS(円)	25.11	12.31	20.76	8.45	68.6%	18.34	113.2%
BPS(円)	521.60	515.63	531.90	16.27	3.2%	-	-
時価総額	21,391	17,962	21,400	3,438	19.1%	-	-
出店数	520	476	534	58	-	-	-
(LAWSON)	(37)	(34)	(38)	(4)	-	-	-

(単位:百万円)		1Q	2Q	3Q	4Q	Total
売上高	2015/3	27,282	28,339			
	2014/3	24,311	24,710	26,166	25,778	100,966
営業利益	2015/3	579	972			
	2014/3	645	371	888	199	2,105
経常利益	2015/3	590	980			
	2014/3	652	415	906	233	2,208
純利益	2015/3	227	451			
	2014/3	177	183	545	-129	777

- 調剤事業、関連事業とも堅調に推移
- 価格交渉は、妥結。前期の様な下振れリスクをヘッジ
- 積極的にジェネリック採用
- M&Aが業績に寄与
- 経費削減
- LAWSON:ヘルスケアCVS 5店舗出店
- アポプラスステーション(APS)業績堅調

調剤事業：店舗別概況



- 売上高は、主にM&Aが寄与し増収
- 20店舗出店、6店舗閉店、14店舗増加(2014/3期末比)
- 連結売上高に占める調剤M&Aの割合49.4%
- 処方箋応需枚数は、既存店、M&Aが寄与し増加
- 処方箋単価は、薬価改定やジェネリックへの積極的な変更により、前年同期比45円減少(特に既存店の落ち込みが大きい)

損益計算書およびセグメント情報



(単位:百万円)				(単位:百万円)				
	2014/3(2Q)	2015/3(2Q)	増減		2014/3(2Q)	2015/3(2Q)	増減	前年同期比
売上高	49,022	55,621	6,599	調剤事業売上高	44,434	50,103	5,669	12.8%
原価	43,785	49,362	5,577	薬剤料	29,979	34,095	4,116	13.7%
原価率	89.3%	88.7%	-0.6%	技術料	9,305	10,436	1,131	12.2%
(人件費)	7,476	8,275	799	その他	5,157	5,578	420	8.2%
総利益	5,236	6,259	1,022	粗利益	3,783	4,125	342	9.0%
総利益率	10.7%	11.3%	0.6%	粗利益率	8.5%	8.2%	-0.3%	-
販管費	4,219	4,707	487	営業利益	1,504	1,643	138	9.2%
販管费率	8.6%	8.5%	-0.1%	営業利益率	3.4%	3.3%	-0.1%	-
(人件費)	1,978	2,205	227	関連事業売上高	4,587	5,518	930	20.3%
(その他)	2,242	2,501	259	粗利益	1,453	2,133	680	46.8%
営業利益	1,016	1,551	535	粗利益率	31.7%	38.7%	7.0%	-
利益率	2.1%	2.8%	0.7%	営業利益	32	389	356	1,097.7%
経常利益	1,068	1,570	502	営業利益率	0.7%	7.1%	6.4%	-
利益率	2.2%	2.8%	0.6%					
当期純利益	361	678	317	■ 調剤事業				
利益率	0.7%	1.2%	0.5%	売上高: 積極的なM&A、LAWSON事業(前年同期比+16.6%)が寄与				
総人件費	9,454	10,481	1,027	利益: 収益重視の出店、価格交渉が妥結し安定した収益確保				
人件费率	19.3%	18.8%	-0.5%	■ 関連事業				
				売上高: APSが寄与、前年同期比1,126百万円増(+36.1%)				
				利益: MR稼働率向上				

貸借対照表



(単位:百万円)	2014/3	2015/3(2Q)
現金及び預金	5,162	5,974
受取手形及び売掛金	10,940	14,228
たな卸資産	6,150	4,707
流動資産合計	24,117	26,468
のれん	16,317	18,238
固定資産合計	29,767	31,484
資産合計	53,904	57,969
借入金	5,733	5,575
流動負債合計	25,450	25,241
長期借入金	8,360	12,414
固定負債合計	11,078	14,948
負債合計	36,529	40,190
資本金	2,828	2,828
資本剰余金	9,085	9,087
利益剰余金	5,371	5,723
自己株式	-298	-228
株主資本合計	16,987	17,410
純資産合計	17,374	17,779
負債純資産合計	53,904	57,969

■ 資産合計 +4,065百万円

■ 流動資産 +2,350百万円

現金及び預金 +812百万円

受取手形及び売掛金増加 +3,288百万円

たな卸資産のうち商品及び製品 -1,562百万円

■ 固定資産 +1,717百万円

のれん増加 +1,920百万円(M&A:9店舗)

■ 負債合計 +3,660百万円

■ 有利子負債 +3,704百万円(16,161百万円→19,865百万円)

ネットD/Eレシオ:0.80倍(2014/3期:0.65倍)

(有利子負債-現預金)/自己資本

■ 純資産 +405百万円

■ 利益剰余金 +352百万円

■ 自己資本 17,431百万円

■ 自己資本比率:30.1%(2014/3期:31.6%)

CF計算書



(単位:百万円)	2014/3(2Q)	2015/3(2Q)
営業活動によるCF	960	1,063
税金等調整前四半期純利益	994	1,512
のれん償却額	570	710
売上債権の増減額(△は増加)	96	△2,783
投資活動によるCF	△5,231	△3,425
有形固定資産の取得による支出	△680	△729
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△4,266	△2,635
財務活動によるCF	5,110	3,251
長期借入れによる収入	2,922	7,708
長期借入金の返済による支出	△1,958	△2,428
株式の発行による収入	3,381	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	838	890
現金及び現金同等物の期首残高	5,268	4,957
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,107	5,848

都道府県別出店状況 530店舗



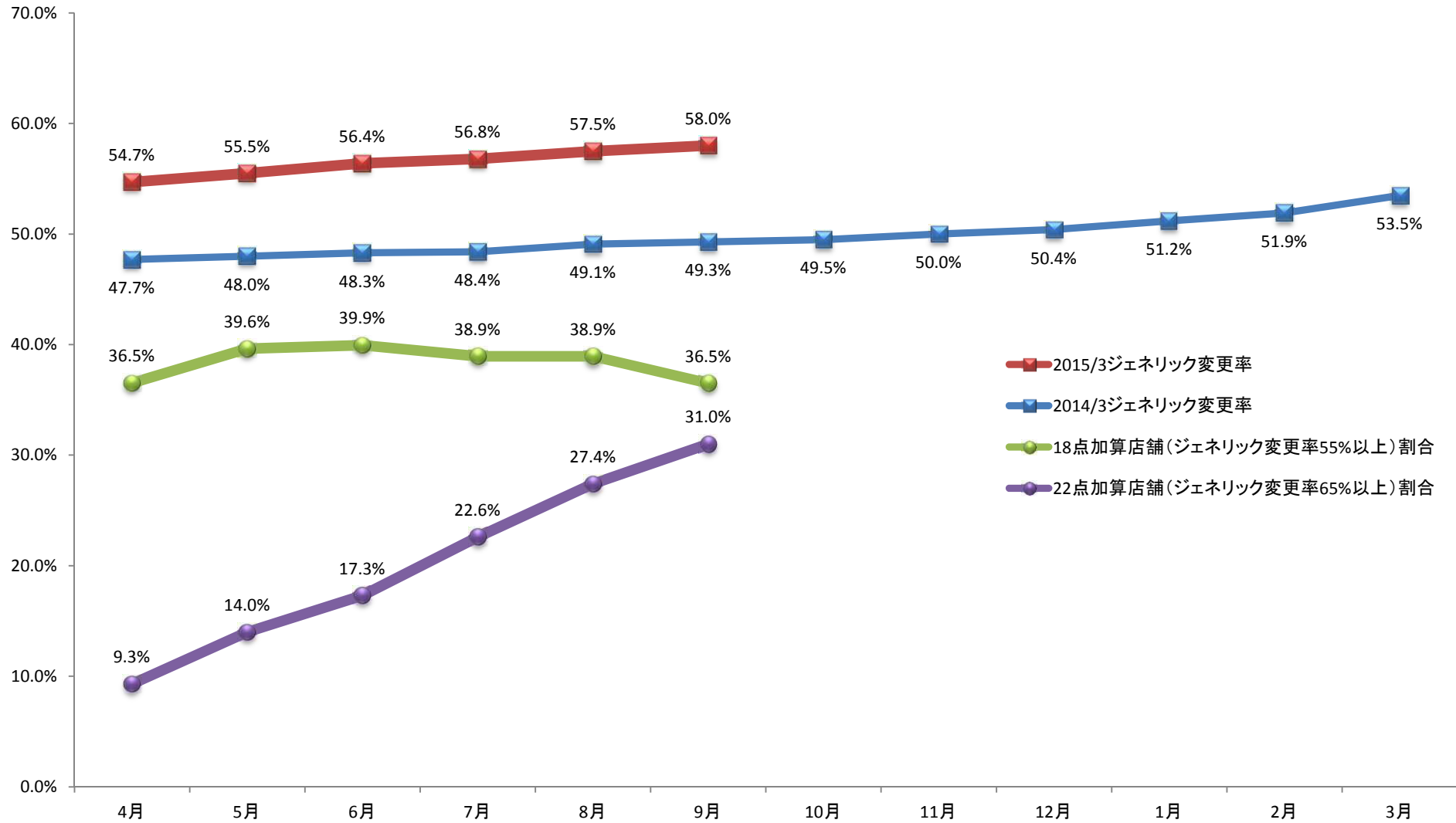
■北海道	4店舗	■静岡県	4店舗	■鳥取県	2店舗	■大分県	2店舗
■青森県	2店舗	■山梨県		■岡山県	7店舗	■沖縄県	2店舗
■岩手県		■長野県	10店舗	■島根県	3店舗		
■秋田県	12店舗	■愛知県	21店舗	■広島県	8店舗		
■宮城県	19店舗	■岐阜県	6店舗	■山口県	1店舗		
■山形県	5店舗	■富山県	2店舗	■香川県	7店舗		
■福島県	31店舗	■石川県	4店舗	■徳島県	4店舗		
■茨城県	45店舗	■福井県	3店舗	■高知県	2店舗		
■栃木県	29店舗	■滋賀県	17店舗	■愛媛県	1店舗		
■群馬県	3店舗	■三重県	1店舗	■福岡県	5店舗		
■埼玉県	37店舗	■奈良県	1店舗	■宮崎県			
■千葉県	28店舗	■和歌山県		■鹿児島県			
■東京都	103店舗	■大阪府	34店舗	■長崎県	3店舗		
■神奈川県	32店舗	■京都府	10店舗	■熊本県			
■新潟県	3店舗	■兵庫県	17店舗	■佐賀県			

エリア	店舗数	シェア
■関東	277店舗	52.3%
■近畿	80店舗	15.1%
■東北	69店舗	13.0%
■中部	53店舗	10.0%
■中国	21店舗	4.0%
■四国	14店舗	2.6%
■九州	12店舗	2.3%
■北海道	4店舗	0.8%
LAWSON	38店舗	
ビックカメラ	4店舗	
JR西日本G	2店舗	
売店	42店舗	2014年月11時点

ジェネリック変更状況・・・積極的に変更



ジェネリック医薬品変更率および加算店舗状況



2015/3期見通し・・・調剤＋APSの両輪で増収増益へ



(単位:百万円)	2013/3	2014/3	2015/3(予)	増減	前期比
売上高	76,783	100,966	112,800	11,834	11.7%
営業利益	2,812	2,105	3,700	1,594	75.7%
経常利益	2,829	2,208	3,700	1,492	67.5%
当期純利益	1,349	777	1,700	923	118.7%
株価(円)	902	655	-	-	-
純資産	13,175	17,374	-	-	-
自己資本比率(%)	32.0	31.6	-	-	-
時価総額	23,019	21,391	-	-	-
発行済株式数	25,520,300	32,658,300	-	-	-
EPS(円)	52.76	25.11	51.97	26.86	107.0%
BPS(円)	511.39	521.60	-	-	-
PER(倍)	17.1	26.1	-	-	-
PBR(倍)	1.8	1.3	-	-	-
ROE(%)	10.5	5.2	-	-	-
ROIC(%)	7.3	3.9	-	-	-
配当金(円)	20.00	18.00	18.00	0	-
配当性向(%)	37.9	71.7	34.6	-	-
出店数	438	520	561	41	-
(LAWSON)	(30)	(37)	(47)	(10)	-

■ 2015/3期 第2四半期決算概要

■ 新業態事業・関連事業

■ 総括

■ 収益改善の取組み

- サインの変更: 売上高 数%アップ

(LAWSON + クオール薬局) → (LAWSON クオール薬局)



- ヘルスケアCVS(ドラッグ機能追加): 5店舗

既存店業態転換(豊洲・高輪・板橋・荻窪) + 新規出店(新横浜)

アイテム数: 3,000(一般店舗) → 6,000

例) 業態転換後のA店売上高は、約50%増

- コスト削減: 深夜にOTCニーズが低い店舗は、薬局に販売を移管
調剤システムを統一(効果: クオールカードが全店舗
利用可能となり、患者さまの利便性拡大)

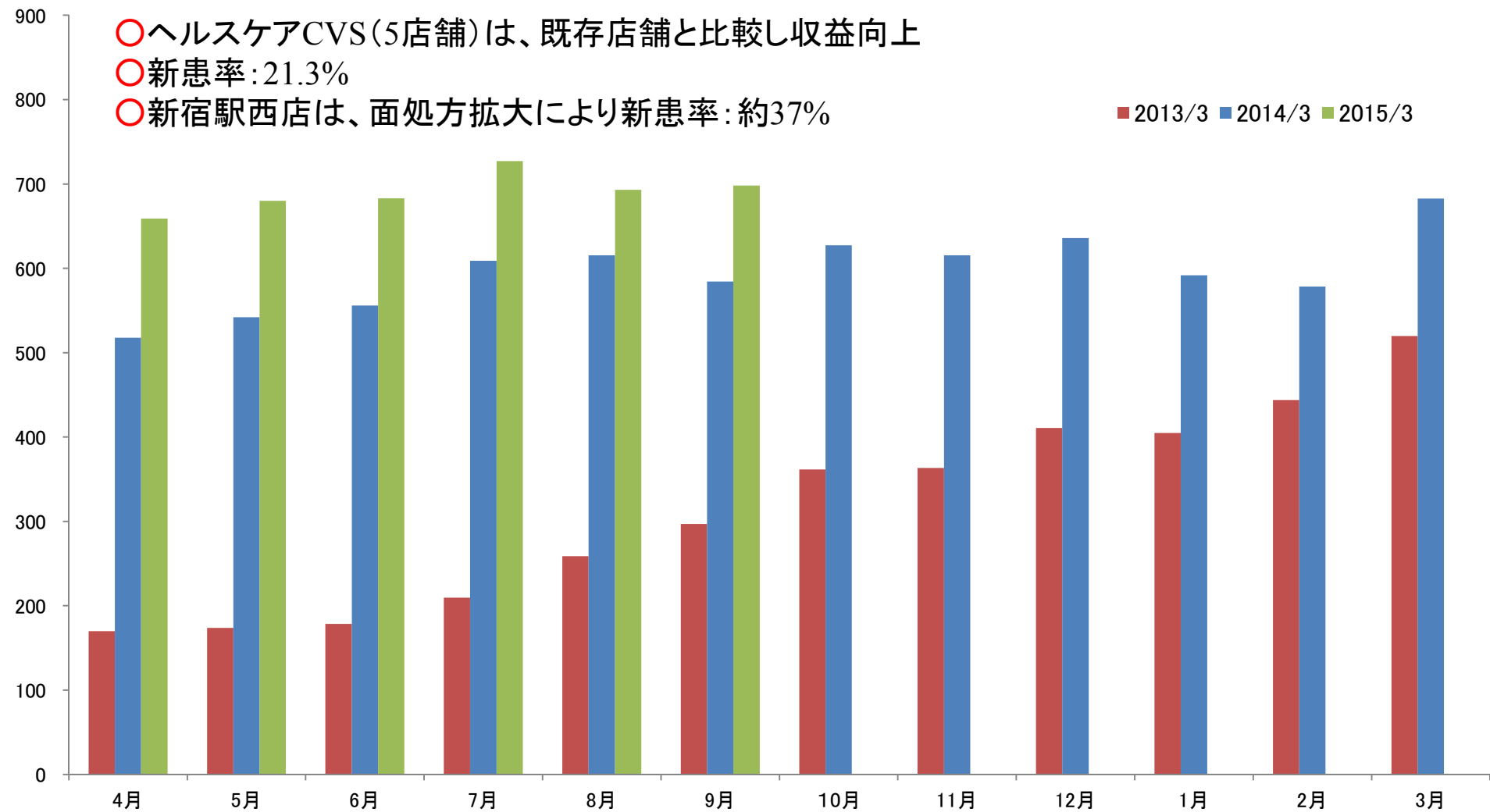
- 出店2店舗、閉店1店舗(収益重視) 9月末出店数38店舗

認知度向上により処方箋応需は拡大

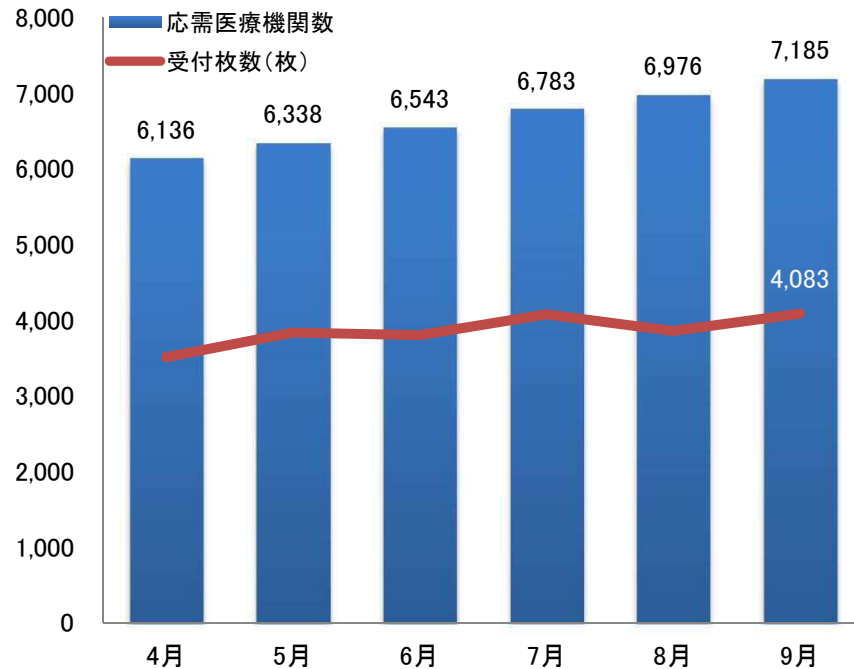


LAWSON事業 売上高推移 (Pharmacy + CVS)

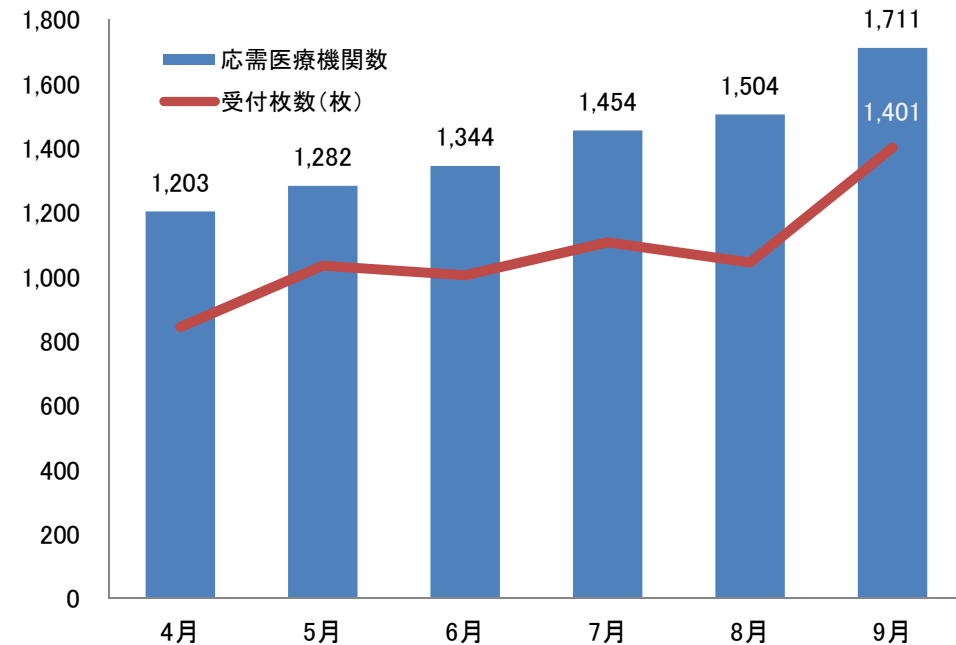
(百万円)



ビックカメラ概況



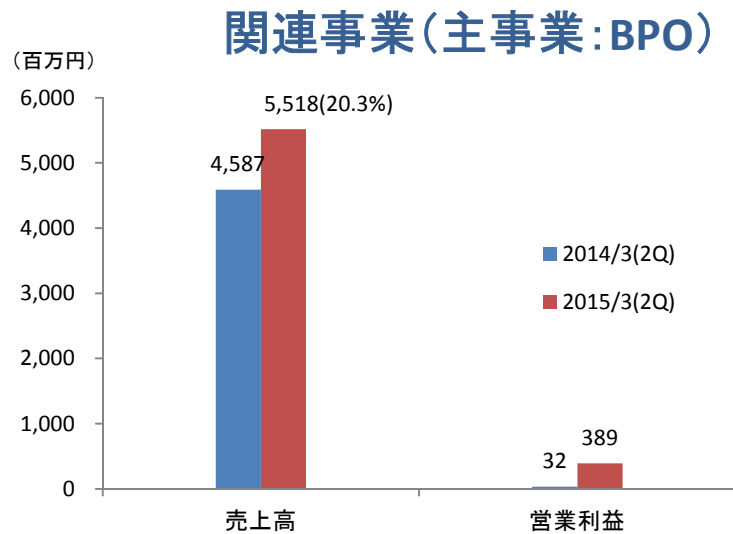
駅クオール薬局



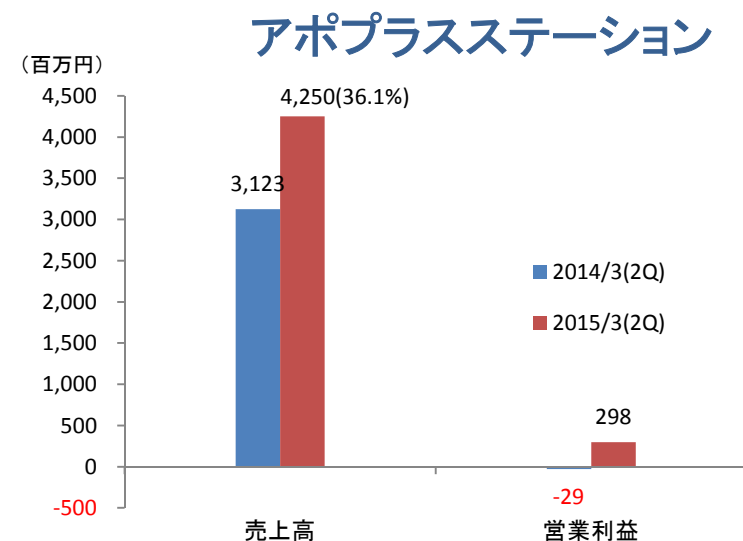
- 有楽町、新宿(ビックロ)は引続き堅調
- 両店舗の処方箋受付枚数は、1,000枚超/月
- 路面店舗外でも認知度上昇により、収益確保可能

- 9月 新大阪店OPEN
- 新大阪店 OTC販売堅調
- 3店舗目は、尼崎に決定(11/29 OPEN)

- 基本コンセプト: 調剤事業より収益力のある事業に投資
- 大幅に収益改善
- APSが業績を牽引
- ✓ APS: 2013/3期 M&Aにより、クオール傘下
- ✓ のれん償却額を上回る利益を確保
- ✓ 下期は、来期を見越したプロジェクトの仕込み期間(先行投資)
- ✓ 2016/3期は、今期以上の営業利益率を見込む



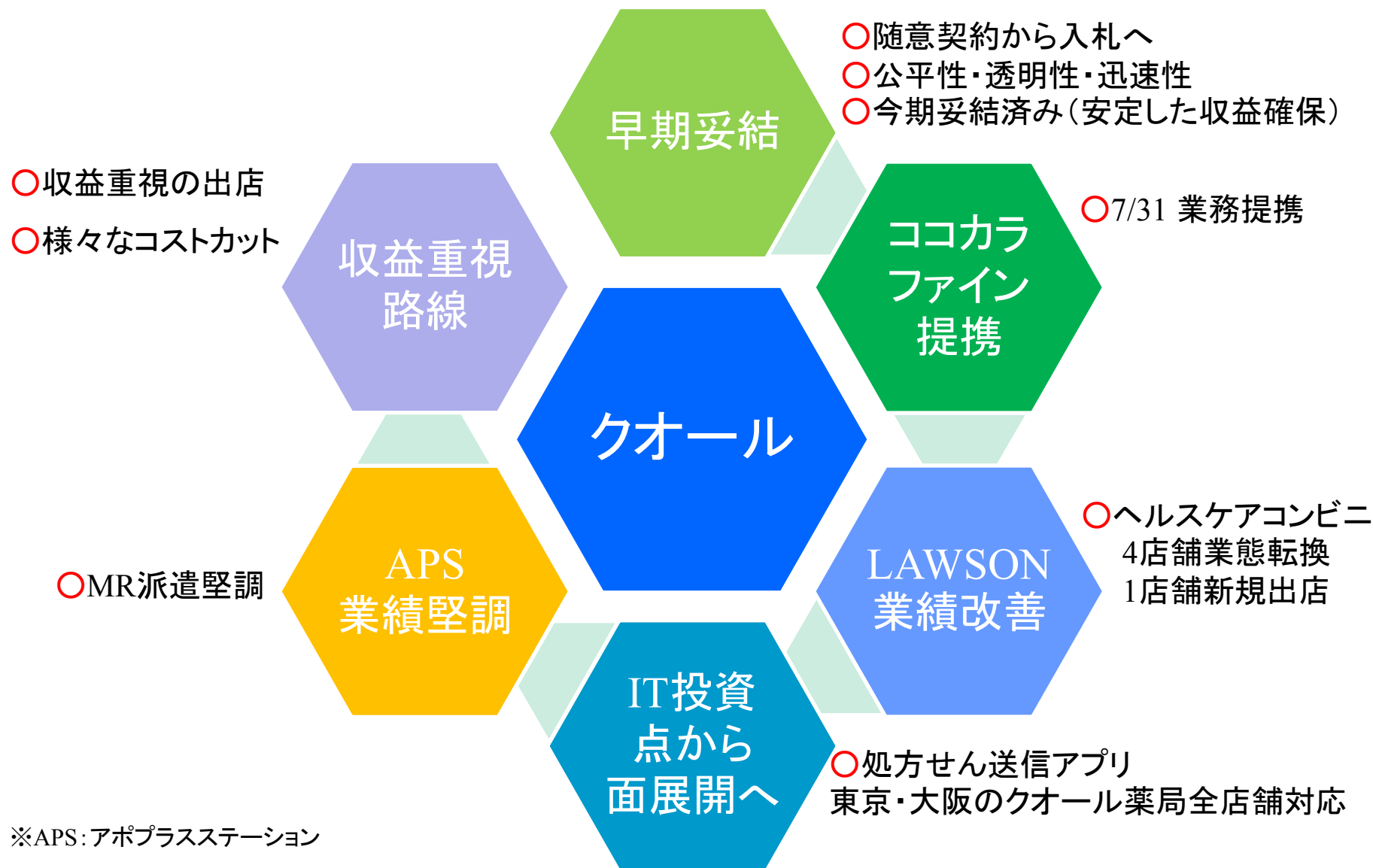
※BPO: Business Process Outsourcing



■ 2015/3期 第2四半期決算概要

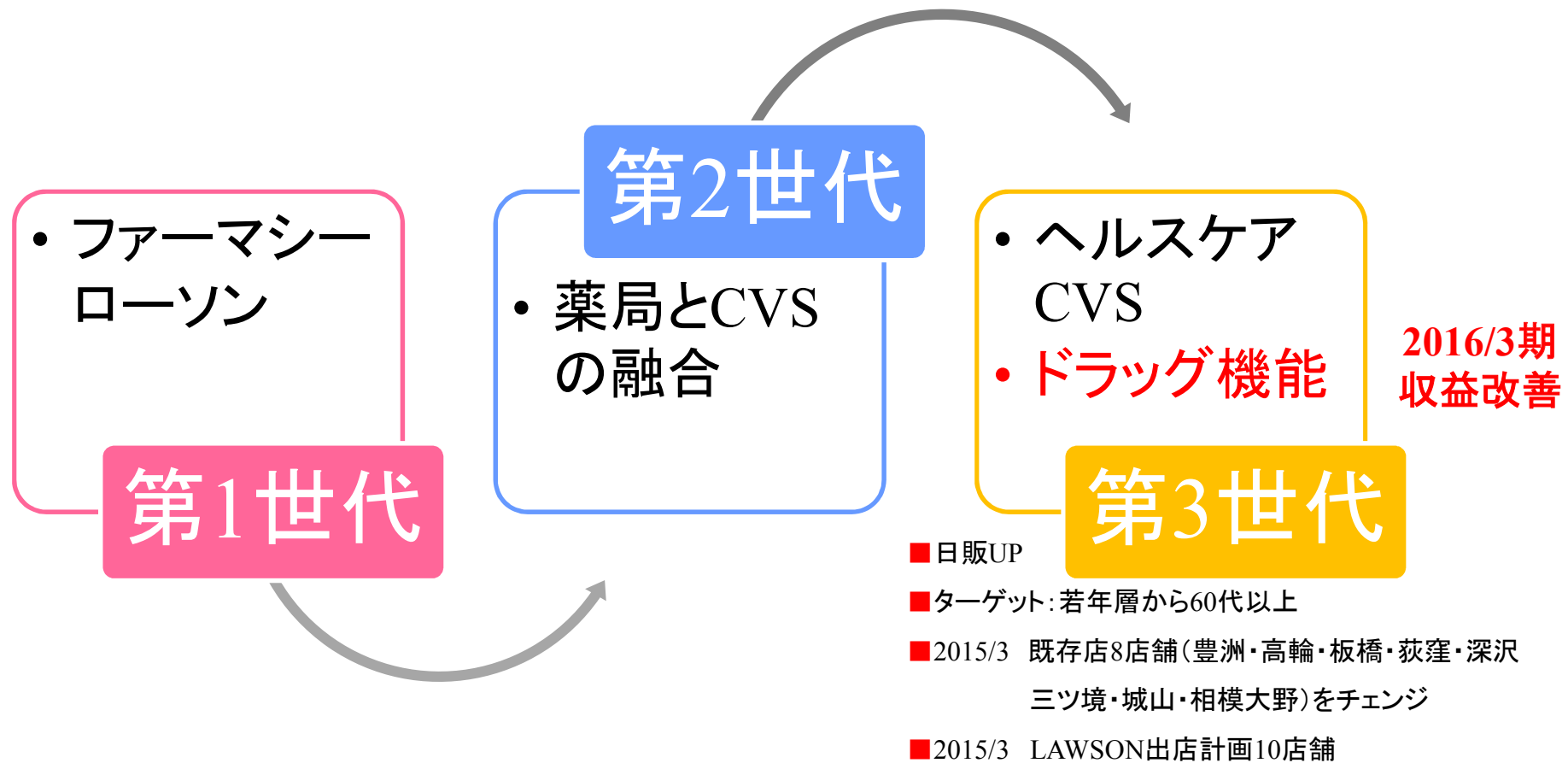
■ 新業態事業・関連事業

■ 総括



第3世代 ヘルスケアCVS

LAWSON + Qol Pharmacy + Drug Store

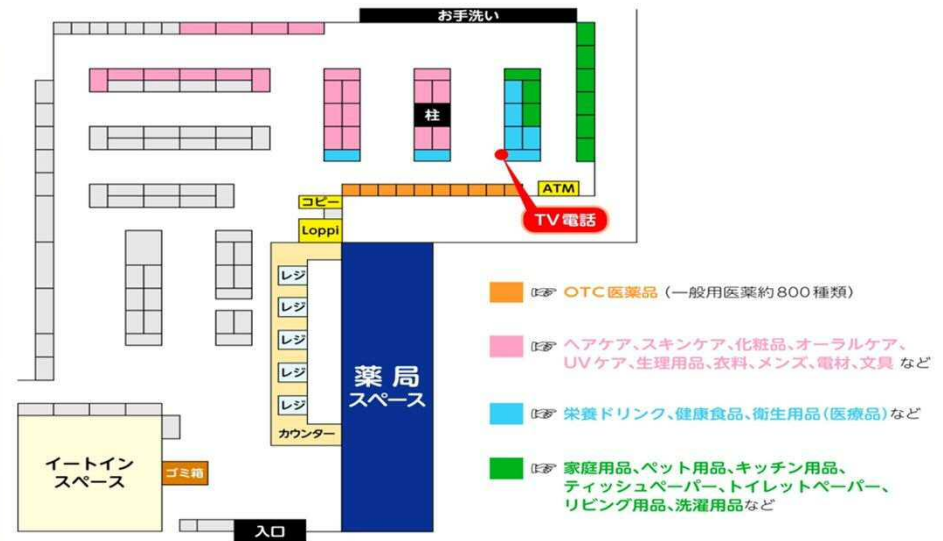


ヘルスケアコンビニ新規出店：新横浜（ドラッグ機能追加）



- 店舗面積119.42坪 ■ 売場面積111.92坪(最大)、調剤薬局7.5坪 ■ 横浜市営地下鉄 新横浜駅8番出口すぐ
- 調剤営業時間：10:00～20:00(日・祝日休み) ■ 入口右：薬局スペース、入口左：イートインスペース(28席)
- 店舗手前がCVSゾーン、店舗奥がドラッグゾーン ■ 取扱い商品数：約5,000種類
- ドラッグゾーン：医薬品＋雑貨=2,800SKU(最大) ■ 24時間対応テレビ電話

店名：ローソクオール薬局港北新横浜2丁目店



第3世代 ヘルスケアCVS 調剤+CVS+DgS

第2世代 調剤+CVS

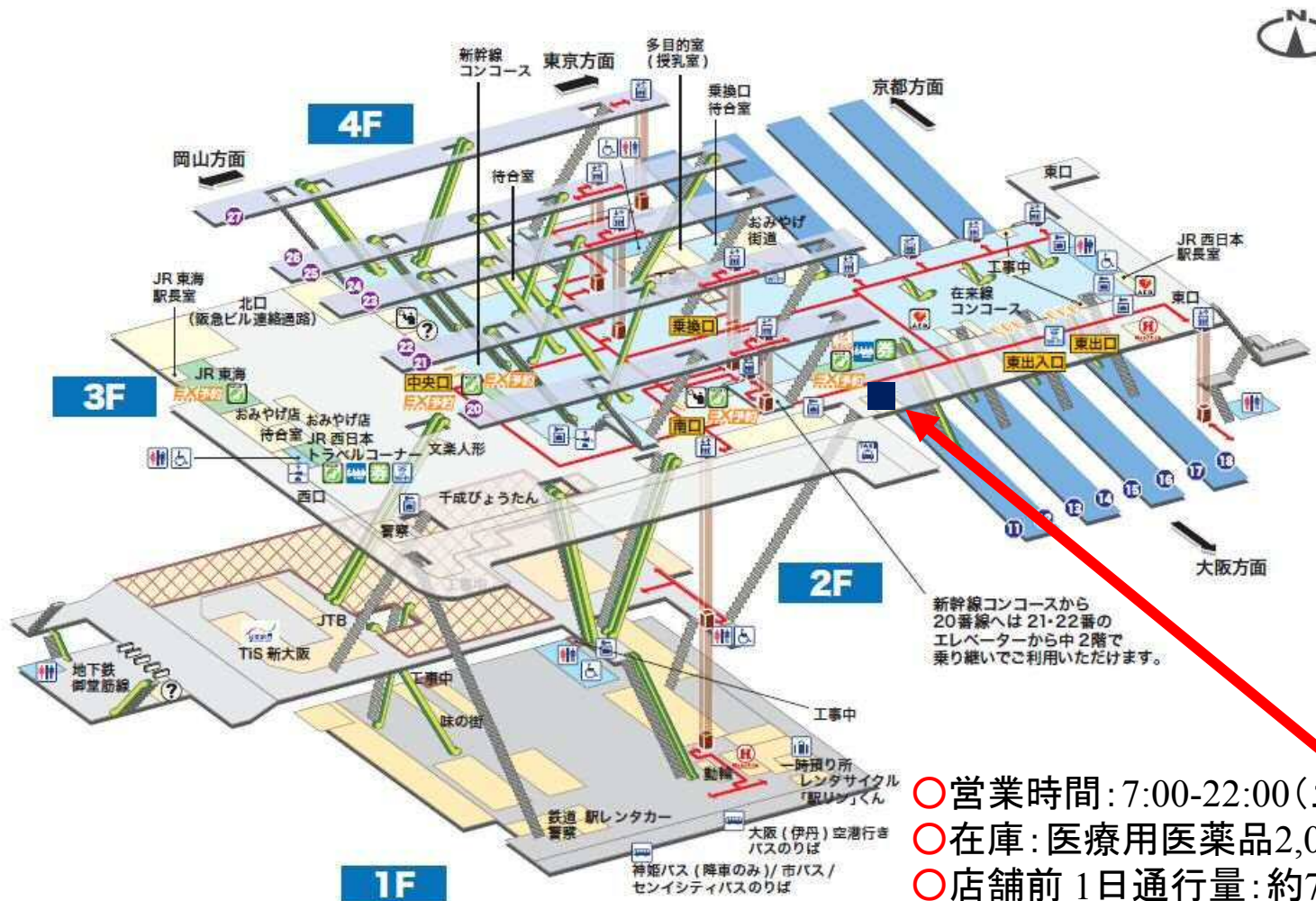
○	日販	×
○	利益	×
—	調剤	—
○	商品数	×

OTC・日用品増加

JR西日本Gとの取組み・・・新大阪駅出店(2店舗目)



出店場所・・・新大阪駅3階



- 営業時間: 7:00-22:00 (土日祝9:00-20:00)
- 在庫: 医療用医薬品2,000品目、OTC1,500品目
- 店舗前1日通行量: 約7万人
- ターゲット: 近隣オフィス、旅行者
- 在来線、新幹線、地下鉄乗換えのメイン通り

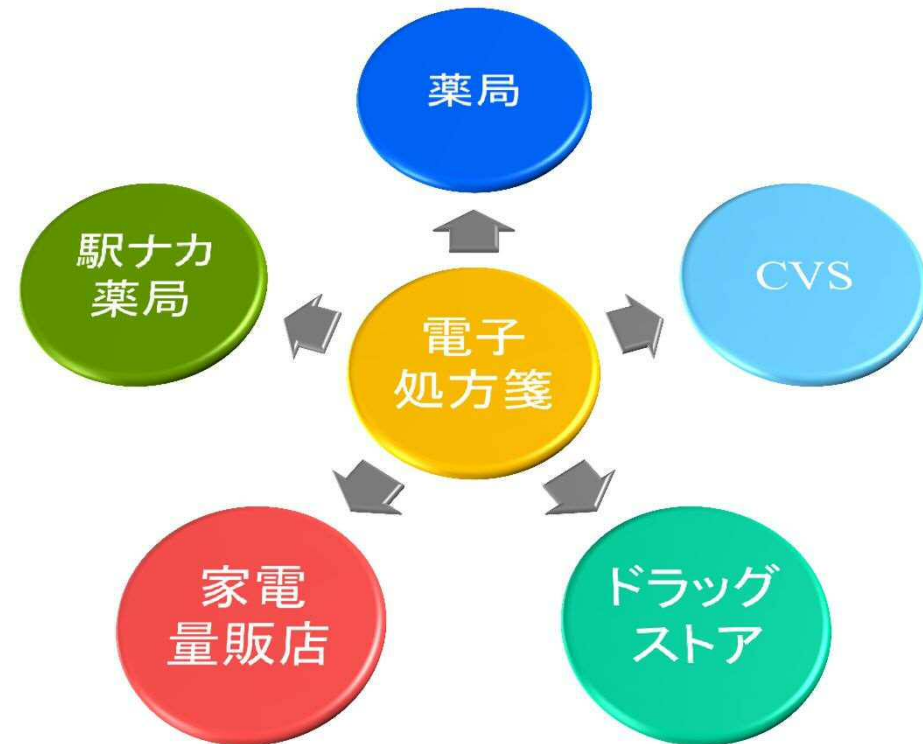
- 2015年から電子処方箋が解禁されると、
処方箋の流れに変化が起こる
- 紙媒体の処方箋だと門前薬局を選択する
割合が多いが、電子処方箋になると利便
性で薬局を選ぶ可能性が高まる
- 4業態と組むクオールの店舗展開が強み
- クオールカードの重要性が高まる



紙媒体だと約80%が門前へ



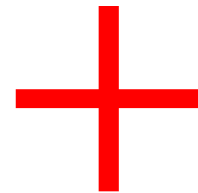
多様な処方箋応需チャネル





2015/3 (E) 100万人

(10月末時点:100万人超)



来期には一体型

通信事業X社と新たな 基盤づくり

- 東京・大阪のクオール薬局全店舗対応
- クオール薬局103店舗
- 新業態店舗42店舗 合計145店舗対応



